

特集にあたって

生田 目 崇（中央大学）

本特集は、経営科学系研究部会連合協議会主催「令和6年度データ解析コンペティション」（以下、「本コンペティション」）における研究成果について、本誌で査読付き論文を募集し、採録された論文によるものです。5編の論文が投稿され、それぞれ2名に査読をお願いし、そのうち3編が採録となりました。発行時期が決まっているため、短い期間にもかかわらず適切な査読をしていただいた査読者の皆様に感謝申し上げます。

本コンペティションでは、株式会社リサーチ・アンド・イノベーション (<https://r-n-i.jp/>) にご協力いただき、同社が運営する購買データ登録アプリ「CODE」のデータのうち、生鮮・総菜カテゴリの購買履歴データを提供いただきました。まずは本コンペティションの趣旨に賛同いただき貴重なデータを提供いただきましたことに感謝申し上げます。

CODEは公開以来300万人以上の登録ユーザがあり、累計の登録レシート数は5億枚に迫るアプリです。大きな特徴は、従来のホームスキャンデータのように購買商品の一つひとつ登録するのではなく、レシートとバーコードを読み取りレシートの情報をそのまま記録するところにあり、その手軽さも利用者増につながっているものと思われます。ただし、生データであり一部データは手入力のため入力表記ゆれがあったり、カテゴリ・メーカー名が抜けているなどがあります。また、同様の商品であってもチェーンごとに異なる名前の商品があったりと、分析を進めるにあたって困難となることも少なからず含まれます。

本コンペティションでは、同社が収集するデータについて次のように加工いただき提供いただきました。

- 対象：15歳から79歳のユーザ
- エリア：全国
- データ期間：2021年1月～2024年6月
- カテゴリ：生鮮・総菜
- データ項目：性・年齢・居住都道府県・チェーン別商品購買履歴データ（カテゴリ名付与）
- 最頻価格

なお、提供いただいたデータのうち購買履歴データは各層の人口100万人あたりに換算したデータとなっており、相対的な購買数となっています。今回のデータの特長は、期間が3年半と長いことと、ユーザの範囲が全国であること、店舗を限定せずに個人購買全体がわかることであり、POSデータなどとはまた一味異なる分析が可能です。本特集で採録された論文はこうした特徴を生かしつつ、学術的な意義も高く実務的なアクションにもつながる大変レベルの高い論文です。

本コンペティションは、全84チーム、合計で530名に参加いただきました。コンペティションの開催にあたっては、本学会ビッグデータを用いたマーケティング分析研究部会をはじめ、関係する研究部会の主査・幹事の先生方に多大なご協力を得ております。また、データ分析環境については株式会社NTTデータ数理システム様に同社が開発した各種の分析ツールを貸与いただきました。毎回快く貸与いただくことに感謝申し上げます。このほか、関連するすべての方々へ感謝の意を表します。

DXやデータサイエンスへの期待が高まっている昨今において、その人材育成・輩出を目的とした各種のデータ分析関連のイベントがいろいろな形で行われるようになりました。本コンペティションは1994年（平成6年）にスタートした老舗イベントの一つと考えておりますが、本コンペティションの開催趣旨に賛同いただき、毎年参加いただける皆様に感謝申し上げます。

令和8年度は書店の複数店舗の販売履歴データを提供してコンペティションを開催しています。一般消費財とは異なるカテゴリであること、商品数が格段に多いことなど、これまでのデータとは異なる様相をもつデータです。3月に全体の成果報告会を開催する予定です。ご興味をおもちの方はぜひ成果発表をお聞きにいらしていただければと思います。